

---

# 短所：自分嫌い

千嶋桂華

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

短所：自分嫌い

### 【Nコード】

N9723R

### 【作者名】

千嶋桂華

### 【あらすじ】

短所がいつぱい見つかる女の子の話。実際こうだったら私は更に高校生活が楽しいだろうな、という願望をこめて（）切ねえ

(前書き)

元々マンガ用のネタなので、文章にしにくい・・・  
途中の×とかは、全部横線にしたかったけど、横線機能がねえ。ま  
いっか

自分がこうだったらよかったのにー！って書きました(切ねえ  
まあ、私自身もそれなりに高校生活を楽しんではいますが  
部活やクラス外だけでなく、クラス内でもこれくらい仲の良い子が  
居ればよかったのになあ、って思いました。ちゃんちゃん

特技・趣味

特に無し。

長所

無し。

短所

人付き合いが苦手。笑えない。運動嫌い。人嫌い。勉強嫌い。大人嫌い。心情理解能力が低い。人間不信。よく考えにおぼれる。いつも悪い方向に考える癖がある。短気。陰気。のろま。不潔。肥満。不細工。無口。

ある日のHRのテーマは、「自分について」だった。

自分について、と言われても大概の人は自分のことなんてよくも知らないはずなんだけど

周りを見渡してみればまあすらすら書くこと！

自分を分かっているつもりなのか、分からないなりに書いているのか知らないが

よくもそこまで書く事があるものだ。

私が書けることなんて、生年月日、血液型、出身中学、文理、所属部活くらいなのに。

長所はもちろん、特技も趣味も、好きな色も好きな教科も思いつかない。

そう思っ必要最小限だけ書いて、後は適当にごまかしておいたらふと、「短所」の欄が目に入った。

「短所なら、書けるかな。」

「短所なら、書けるかな。」

さっきまで少ししか欄を埋めてなかった隣の子のシャーペンがその言葉と同時にすごいスピードで動き出した。

不思議に思っただけで眺めると

「うわ……」

欄をはみ出すほどに溢れ出す、彼女の短所。

最初のほうこそ、自分を客観的に見ていたはずの彼女は終わりの方には根拠のない悪口としか言えない内容ばかり書きつづっていた。

ああ、こんなに自分を辱める言葉ばかり知っている彼女はいじめられているのか？答えはNO.

ただ彼女自身で考え出した、自分の“短所”

こんなの、おかしい。おかしいだろう。

「ねえ……」

「ねえ、ちょっとその紙貸して。」

突然、隣の席の子が話しかけてきた。

まだ入学したてで、ほとんど会話をかわしたことが無いだけに私は下手に逆らえず、つい紙を貸してしまった。

するとどうだろう、彼女はあろうことか私の紙に赤いペンで添削を始めた

「ちよ、ちよつとやめてよ！」

「少し黙ってて。」

黙々と書き加えられる何か。時折バツテンを付けられている項目も

あるようだ。

「ね、ねえ何してるの？」

「んー内緒。そうだ、私の書いてない項目書いておいてよ。」

「え……！」

そんな、無茶だ。私が人のことなんて書けるわけない。書くにしても、とても時間が掛かる。

それなのに私が紙を受け取った途端に、HR係が号令をかけ、後ろから紙を集めるようにと言った。

「ほら、もう集めなきゃ」

「わっ、はい。」

素早く彼女の紙に書き込み、彼女と交換する。

手渡された紙を見る暇も無く、後ろの席の人が紙を回してきた。

急いでまわそうとするとき、彼女の赤い丸い文字がちらりと見えた。

短所の欄は全て赤い線でバツテンを付けられ

その下に大きく

『自分嫌い』

と書いてあった。

今日のLHRのテーマは、「自分について」だった。

高校生にこのテーマは退屈なのではないか、と思ったが

このクラスの子たちは真面目なのか、案外綺麗に紙が返ってきた。

「ふーん。」

クラスを受け持った時に思うが、やはり子供達は面白い。

十人十色というが、40人居れば40色どころか100色くらい色がある。

今年も、そんな多色な子が多く集まっているようだ。

好きなものと嫌いなもの、特技・趣味、長所と短所全部を教科名で

済ませている子

逆に、全てをスポーツの名前だけで埋めている子  
何故か全ての欄を絵で描いている子

シャーペンやボールペンではなく、筆ペンを使っている子

やたら色を使っている、どこかのポスターみたいになっている子

「やっぱこの学校は変人が集まるんだなあ。」

うーんと背伸びをした手の先に、誰かのスーツが当たる

「あれ、後藤先生。」

「ふふ、この学校は個性的な子が多く集まりますよね。」

やばい、学年主任に聞かれてたか。

「いやただ世間一般とずれているという意味だけで、決して」

「別に責めてはいませんよ。」

柔らかな微笑みでそう返される。

まあ、この学校は校長自ら個性の集まる高校と称すくらいだから、別に悪いことを言ったわけでもないのか。

そう無理やり自分を納得させて、足元に落ちた紙を拾う。

「それは自己紹介のプリントですか。」

「まあ、そんなものですね。」

さっきまで見ていたその紙の束を後藤先生に渡す

先生は時折目を細め、時折小さな笑い声をもらしながら読み進めていったが

途中、2枚のプリントで目を留めた。

「これは・・・」

「ああ、そいつらですか。」

大人の男が書くような、筆圧の高い、無骨で角ばった文字と

反対に、年頃の女の子らしい、丸く可愛らしい文字。

二枚の紙の中で、混在している2種類の文字。

「別に隣同士で交換しろとは言っていないんですけどね。」

むしろ、人と相談せずに書けと言ったのに。

そう愚痴めいた呟きをもらすと、後藤先生はまた柔らかく微笑み

頬が緩んでいますよ、とチャームिंगな仕草で教えてくれた。

「やはり、こういうのは嬉しいですか？」

「・・・まあ否定はしませんよ。」

ほんの少しの気恥ずかしさで曖昧な返事を返すと

後藤先生は癖なのだろうか、あの柔和な笑みで私にプリントの束を返した

「よいクラスをもちましたね。」

・・・まあ否定はしないさ。

特技・趣味

特に無し。

長所

無し× 笑顔が可愛い、真面目

短所

人付き合いが苦手× 笑えない× 運動嫌い× 人嫌い× 勉強嫌い× 大人嫌い× 心情理解能力が低い× 人間不信× よく考えにおぼれる× いつも悪い方向に考える癖がある× 短気× 陰気× のろま× 不潔× 肥満× 不細工× 無口× 自分嫌い

特技・趣味

ピアノ

長所

無いよ× 優しい。植物が好きそう。



短所

どじ、馬鹿× 可愛い

「ねえ、植物が好きそうって長所？ていうか断定してないじゃん。」

「そっちこそ。私の笑顔なんて知らないでしょ。」

「ん、合格発表のとき見た・・・気がする。」

「断定できてないよ、それ。」

「っていつか！短所に可愛いって何ー!？」

「可愛い奴なんて滅べば良い。」

「ひっど！マジひっど!！」

「あはは」

(後書き)

後藤先生はきつとイギリス貴婦人のごとき風格と優しさを兼ね備えている老婦人だろう。

いや、30代後半くらいのマダムとかでもいいけど。いいけど。

とりあえず後藤先生みたいな先生が担任であって欲しい。あ、でも怒ったら怖そう。

後藤先生後藤先生後藤せんす( )

二人の担任の先生は20代の男で、この学校3年目です。

けっこうやる気無い。私の担任っばい。

けどまあまあ顔は良い方と思う。クラス外からの人気高し。

クラス内からは苗字呼び捨てとかにされてる、多分。

二人については、まあ読めば分かる。多分。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9723r/>

---

短所：自分嫌い

2011年10月8日12時25分発行